

## 新規就農者等の経営安定化

### 八頭農業改良普及所

#### 〈活動事例の要旨〉

新規就農者や親元就農者の経営安定化を図るために、個別指導や集合研修を通じて技術や経営支援を行うとともに、関係機関が連携して一体となって新規就農者等の支援を行った。

#### 1 普及活動の課題・目標

##### (1) 背景と課題

ア 八頭管内の新規就農者等の動向

八頭管内では毎年3名程度の新規就農者があり、就農にあたっては国や県の支援事業を受けている場合が多い。

平成26年度に創設された親元就農促進事業の活用もコンスタントにあり、親元就農者数が増加している。

表1 八頭管内の新規就農者数の推移

年 度	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	計
若桜町	0	1 (1)	0	0	0	1 (1)
智頭町	0	2	1 (1)	2 (2)	0	5 (3)
八頭町	4	3 (2)	3 (2)	0	3 (2)	13 (6)
計	4	6 (3)	4 (3)	2 (2)	3 (2)	19 (10)

(注) ( ) 内は親元就農者で内数とする。

##### イ 課題

新規就農者は、就農前にアグリスタート研修等を受講し、農業技術をある程度事前に習得しているとはいえ、農業基盤がほとんどなく農業経験が不十分な場合もあり、就農時に設定した農業所得の確保が難しい事例がある。

また、資金や労働力の不足、経営管理に必要な知識や技術の不足、農地確保などの問題を抱えている事例も多い。

##### (2) 目標

新規就農者個々の就農計画作成時の所得目標を達成し、経営の安定化を図れるように支援するようにしているが、普及所としては、所得目標ではなく、収量目標や栽培技術の習得を重点対象者10名が達成することを普及計画の到達目標に掲げた。

表2 重点対象者10名の概要

就農区分		就農部門		
Iターン	Uターン	野菜が主	果樹が主	畜産+水稲
3名	7名	6名	3名	1名

## 2 普及活動の内容

普及所内では、総合支援班を中心として、各特技が連携して活動するとともに、農業振興室、各町、農業委員会、JAと連携をとりながら新規就農者等への支援を行った。

### (1) 新規就農者、親元就農者に対する支援

#### ア 集合研修による支援

##### (ア) 複式簿記の習得のための簿記研修会を開催

新規就農者の複式簿記記帳方法の習得と経営管理技術の習得を目的に、前年に続き、年6回の研修会を開催した。状況によっては個別での対応も行った。

##### (イ) 農業士会と連携し現地巡回や研修会を開催

八頭地区農業士会と事前に研修の内容を調整し、合同の現地巡回1回、研修会1回を開催し、お互いの状況把握や知識の習得を図った。

##### (ウ) グループ化による支援

共通品目だと情報も共有しやすいのではという思いから、普及員が調整役となり果樹（ナシ）と畜産（和牛）で、平成29年度から新たにグループ化した研修会を企画し、それぞれ5回研修会を開催した。

なお、グループには重点対象者が含まれるように努め、果樹ではメンバー7名のうち1名、畜産ではメンバー5名のうち1名が重点対象者となった。

#### イ 個別対応による支援

重点対象者には特技普及員がはりついて、栽培技術等の支援を行った。その支援状況については、普及所の定例打ち合わせ（月2回）で、各所員が状況把握を行った。

また、野菜が経営の柱となっている6名のうち4名は、同一品目を栽培する任意の生産組合となっており、組織活動の支援も行った。

## (2) 新規就農者等への関係機関と連携した支援

### ア 各町の状況報告会での必要な個別支援を検討

各町で開催される新規就農者等の状況報告会（面談）で、個々の経営状況や就農計画作成時の所得目標の達成度を把握し、必要な個別支援の検討を行った。

### イ 各町と連携した現地確認会（圃場巡回）を実施

状況報告会では確認が不十分な点もあることから、町等と連携して、これまでできていなかった現地確認会（圃場巡回）を開催し、現地で、課題の明確化と解決方法の検討を行った。

## 3 具体的な成果

### (1) 収量目標を5名が達成

上記のような総合的な支援を行うことによって、重点対象者10名のうち5名（野菜1名、果樹3名、畜産＋水稲1名）がほぼ収量目標を達成し、うち4名は就農計画の所得目標も達成することができた。

また、野菜のうち同一品目を栽培する4名の生産組合については、平成29年産は収量目標に到達しなかったものの、収量は前年を大幅に上回り、収益の分配を行えるようになった。さらに、次年度も安定した収量確保、収益確保の可能性が出てきた。

### (2) 栽培技術を習得

果樹（ナシ）と畜産（和牛）でグループ化して行った研修会（各5回開催）等により、仲間づくりと基礎的な栽培技術の習得が図れたと考えている。また、メンバーからは「共通品目で集まりやすい。少人数で聞きやすい。内容がわかりやすい。」と好評で、メンバーはほとんど欠席することなく意欲的に参加していた。

### (3) 複式簿記記帳方法を習得

簿記研修会の開催により、複式簿記記帳方法を習得し、経営分析への意欲も高まった。新たにソリマチ簿記ソフトを利用して記帳し、部門分析しようとする者が1名できた。

## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 新規就農者個々の目標の明確化と早期の経営安定化への支援

平成29年度は、普及計画には各品目の収量を目標としていたが、平成30年度は就農前に作成した就農計画の所得目標（就農5年目で所得240万円以上）を普及計画に位置付け、計画的に、早期に所得目標が達成できるように支援していきたい。

### (2) 状況に応じた対処方法の検討

平成29年度の新規就農者の状況をみると、干ばつ、猛暑、長雨、積雪等の気象災害で計画どおり作業ができず、収量・品質等の目標が達成できなかった例が多かった。そのため、あらかじめ事前の対応策の検討や作業段取りの見直しをしていけるように細やかな対応をしたい。

特に、野菜6名のうちハウスを所有しているのは1名と、ほとんどが露地での生産のため、あらかじめの圃場の選定や排水対策により作業が計画的に行えるような対応を行いたい。

また、場合によっては、調査機器（ICTも含め）の活用により、栽培技術の裏付けや説明が、調査データをもとに科学的にできるようにしたい。

(執筆者：福田 義博)